MRLF

たらちね通信

Mothers' Radiation Lab & Clinic Fukushima

vol.21

2022.11

たらちね通信

ご支援者の皆さまへ

いつも、たらちねの活動を応援いただき、誠にありがとうございます。
2011年11月の開所当初は、測定室として始まったたらちねですが、被災者である私たちを取り巻く被災地の環境の変化や、市民の皆さまの声に耳を傾けながら、今では放射能測定室、クリニック、甲状腺検診プロジェクト、保養プロジェクト、こころのケアと大きく5つの事業を展開しています。力強く応援くださる皆様の励ましに支えられ、11年間活動を続けることができました。

昨年、政府が2023年の春頃を目処に決定した福島第一原発の処理汚染水海洋放出に対し、東京電力は放出に向けた「事前工事」を着々と進めています。地元漁業者と「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と約束していますが、市民や漁業者が反対の声を挙げているにもかかわらず、既成事実を積み上げ、海洋放出を強行していく見込みです。仮に海洋放出が始まってしまうと、数十年もの間流し続けことになってしまいます。たらちねの測定では、現状最も懸念されているトリチウムの汚染がないことを確認しています。子どもたちの未来を守るため、母なる海の環境保全のため、諦めることなく声を上げ続けたいと思います。

私たちに出来る事は限られていますが、これ以上の課題を残すことなく次世代にバトンを渡したいと思っています。それはご支援者のみなさまのお心と共にあり、共に歩んでいく道筋でもあると思います。

コロナウイルスだけではなく、本格的な冬の到来にも備えが必要な日々が始まります。心配は尽きませんが、みなさま、どうかくれぐれもお身体を大切にお過ごしくださいませ。今後とも、たらちねの活動への変わらぬ応援とお力添えをどうかよろしくお願い申し上げます。

放射能測定
- Cs137,Cs134測定
- トリチウム測定
- ストロンチウム90測定

クリニック
- 内科・小児科
- 健康診断
- 甲状腺検診
- ホールボディカウンター
- 尿中セシウム測定

甲状腺プロジェクト
- 出張甲状腺検診

子ども保養プロジェクト
- 沖縄・球美の里
- くまべこお泊り会
- オルト・ディソーニ(イタリア)

こころのケア
- こころの遊び場
- ボディワーク
- ママカフェの実施

緊急・ご寄付のお礼

今年の6月からご寄付をお願いし、購入を目指していました「日立アロカ製・液体シンチレーション測定器」が購入できることになりました。
多くのみなさまのご厚情と大きなご支援に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

測定器はすでに発注を済ませましたが、昨今の流通の遅れが影響し、納品までには6ヶ月程度かかります。今後、こちらの液体シンチレーション測定器を使用し、トリチウム測定に力を入れていきます。1日でも早く、測定結果を共有できるようラボスタッフ力を合わせ頑張っていきます。

子どもたちが生きる未来に貢献し、今を生きる私たちが願う自然との共存が叶う世の中を作り出すため、私たちにできることを尽くしていきたいと思います。

認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね

魚の組織結合型トリチウム測定に必要な液体シンチレーション測定器購入のための

たらちねからの緊急・ご寄付のお願い

受付期間　2022年6月～2022年8月末日

いつも、たらちねの活動に応援をいただき誠にありがとうございます。コロナ禍が長引く中、ウクライナにおいては戦争が始まり、子どもたちの行く末が案じられる日々が続いております。苦しんでいる子どもたちの安全と、安心できる日々が一日も早く戻ることを願ってやみません。
さて、この度は、世代を超えた海洋汚染につながる未曾有の問題について、みなさまにお力添えをいただきたく、お願いのお手紙を差し上げました。
福島第一原発から放出される汚染水の問題は、私たちの世代が直面している大きな課題です。

たらちねでは、東京電力福島第一原発の汚染水放出に備え、魚に含まれる組織結合型トリチウムの測定体制の強化をすべく、液体シンチレーション測定器の購入を目指しています。

命を守り、子どもたちの未来を守るため、測定器の購入実現にみなさまからのお力添えをいただきますようどうかよろしくお願い申し上げます。

液体シンチレーション測定器の価格は2300万円です。
購入には、あと1000万円足りません。

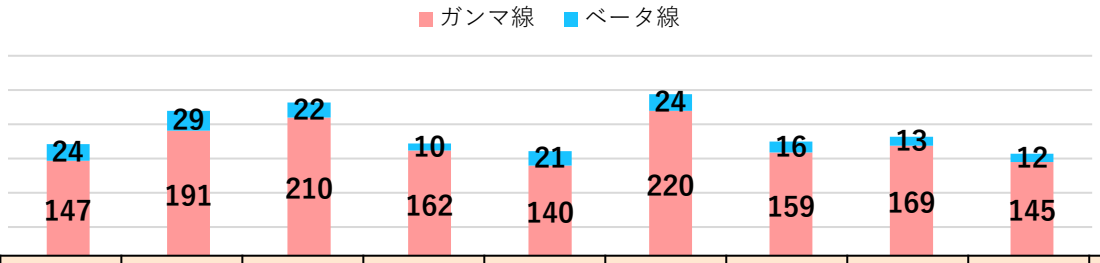
目標金額は１０００万円です！

購入希望測定器　購入価格2300万円　日立ヘルスケア社製
低バックグラウンド液体シンチレーションシステムLSC-LB8
＊ユニークな検出器構造と卓越した低バックグラウンド技術により、トリチウムの測定において世界最高レベルの検出性能を実現。

この度の事業については、2ページ目以降で説明をさせていただきます。お忙しいところ、お時間をいただきますが資料をご覧いただきますよう、どうかよろしくお願いいたします。

放射能測定件数 1714件 (2022年1月～9月)

1月～9月までで1714件の測定(依頼測定の他、海洋調査や公園測定、砂浜測定などで採取した試料も含む)を行いました。
セシウム137,セシウム134を測定するための、NAIシンチレーション検出器4台、ゲルマニウム半導体検出器2台、トリチウム,ストロンチウム90を測定するための、液体シンチレーション測定器2台の計8台が毎日フル稼働しています。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
ガンマ線	147	191	210	162	140	220	159	169	145	1543
ベータ線	24	29	22	10	21	24	16	13	12	171
合計	171	220	232	172	161	244	175	182	157	1714

○セシウム137,セシウム134(ガンマ線)

食材……多くの場所で不検出なっていますが、やはり高線量地域や、山菜類、キノコ類、タケノコなどは検出される傾向があります。

土壌……福島県内、その周辺地域土壌は、未だセシウム137,セシウム134が検出されています。家庭菜園等で農作物を作っておられる方は、一度測定をしてみる事をお勧めします。

水試料…水道水、川水、海水等の環境水を測定しています。福島県内の海水のほとんどの箇所から、セシウム137が検出されています。

○トリチウム…(ベータ線) 自然界では宇宙線等により生成されるといわれており、川水や水道水等から検出されています。たらちねラボで測定した福島県内の海水は、全ての箇所で不検出となっています。

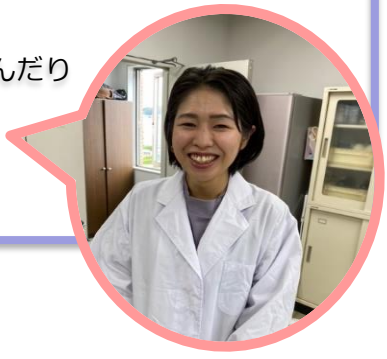
○ストロンチウム90(ベータ線)

食材……白米や魚(骨・頭)、キノコ類等を中心に測定を行っています。

土壌……福島県内に限らず、ストロンチウム90が検出されることがあります。1960年代の核実験影響だと思われます。こちらもセシウム同様、家庭菜園等で農作物をつくっておられる方は、一度測定をしてみる事をお勧めします。

水試料…水道水、川水、海水等の環境水を測定しています。福島県内の海水からは、場所に限らず検出されます。

測定担当の折原です。
たらちねに入所する前は、気にしているのは食品が主で、土壌や灰などの放射能を気にすることはありませんでした。福島第一原発の事故から年数も経つとだんだん意識も薄れ高線量といわれている場所や食品以外は気にならなくなっていました。
しかし、測定の仕事をしてみると、まだ高い数値の食品があること、土壌の放射能の数値がまだまだ高く同じ市内でも場所によって数値が異なること、植物も灰になると濃縮されることを知りました。子どもたちへの放射能の影響がないよう、自分なりに気をつけているつもりでしたが、つもりなだけで実際は、
ほとんど何もできていなかったということを痛感しました。
測定を始めてからは、出来る限り高線量の公園は控えたり、食品も測定結果を見ながら選んだりと、今まで以上に放射能を気にかけることができるようになりました。
測定を続けることで、1人でも多くの人たちが放射能の影響を受けないように日々、
努力していきたいと思います。



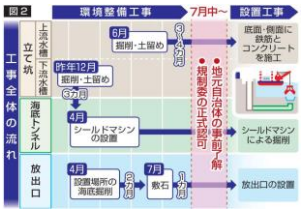
処理汚染水放出認可のための東京電力の動き

○2022年4月25日

・東京電力は原子力規制委員会の認可も、立地自治体の了解も、漁業者と約束した「関係者の理解」もなしに、海洋放出に向けた工事を開始した。
・「事前工事」だからと認可も了解もいらないと進められた。
・海底1kmまでトンネルを掘って、汚染水を放出予定である。

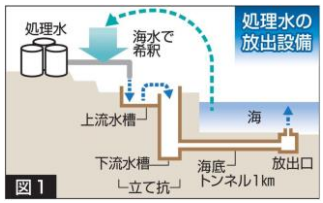
○7月22日

・原子力規制委員会は、海洋放出の実施計画を認可した。
・今後、大熊町・双葉町・福島県の了解を得て工事が進んでいく。



東京電力が工事を進める海保用放出設備の概要と、東京電力側が想定する工事のスケジュール

（2022年7月13日河北新報）



（2022年5月10日撮影）

海洋調査で撮影した東京電力による海底トンネルによる海洋放出に向けたの放出口の工事の様子。赤のクレーンを積んだ緑の船が浚渫船

○2022年8月2日

・放射性物質を含む処理水を海に放出する東京電力の計画をめぐって、福島県と地元の大熊町、双葉町は、放出に使われる海底トンネルなどの建設を了解した。

今後、工事はますます急ピッチで行われると思われます

市民・自治体・漁業者の放出反対の声

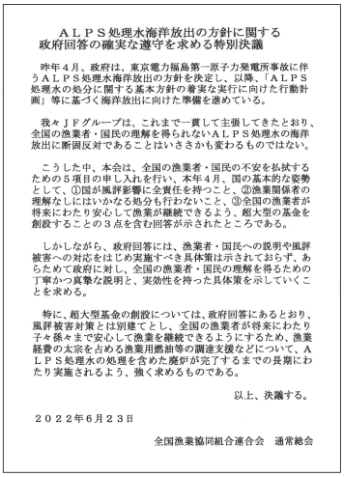
○市民の反対

「海の日アクション2022 汚染水を海に流すな！海といのちを守るパレード。炎天下にもかかわらず100人ほどが集まった。
（2022年7月18日）

パレード時のコール！
汚染水流すな！漁業を守れ！海を汚すな！
子どもを守れ！原発いらない！未来を守れ！

○全漁連の特別決議

「我々JFグループは、これまで一貫して主張してきたとおり、全国の漁業者・国民の理解を得られないALPS処理水の海洋放出には絶対に断固反対であることは、いささかも変わることはない」と声明を出した。
(2022年6月23日)



ＡＬＰＳ処理水海洋放出の方針に関する政府回答の確実な遵守を求める特別決議

昨年４月、政府は、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴うＡＬＰＳ処理水海洋放出の方針を決定し、以降、「ＡＬＰＳ処理水の処分に関する基本方針の着実な実行に向けた行動計画」等に基づく海洋放出に向けた準備を進めている。

我々ＪＦグループは、これまで一貫して主張してきたとおり、全国の漁業者・国民の理解を得られないＡＬＰＳ処理水の海洋放出に断固反対であることはいささかも変わるものではない。

こうした中、本会は、全国の漁業者・国民の不安を払拭するための５項目の申し入れを行い、本年４月、国の基本的な姿勢として、①国が風評影響に全責任を持つこと、②漁業関係者の理解なしにはいかなる処分も行わないこと、③全国の漁業者が将来にわたり安心して漁業が継続できるよう、超大型の基金を創設することの３点を含む回答が示されたところである。

しかしながら、政府回答には、漁業者・国民への説明や風評被害への対応をはじめ実施すべき具体策は示されておらず、あらためて政府に対し、全国の漁業者・国民の理解を得るための丁寧かつ真摯な説明と、実効性を持った具体策を示していくことを求める。

特に、超大型基金の創設については、政府回答にあるとおり、風評被害対策とは別建てとし、全国の漁業者が将来にわたり子々孫々まで安心して漁業を継続できるようにするため、漁業経費の支弁を含める漁業用燃油等の調達支援などについて、ＡＬＰＳ処理水の処理を含めた廃炉が完了するまでの長期にわたり実施されるよう、強く求めるものである。

以上、決議する。

２０２２年６月２３日

全国漁業協同組合連合会　通常総会

○県内の多くの市長・議会の反対

市町村長の朝日新聞のアンケート「容認する」答えた人はいない。「どちらかといえば容認」が数人いるほか、ほとんどが「容認できない」「どちらかといえば容認できない」と回答している。

○野崎哲福島県漁連会長

「海洋放出は就業の場である海に汚染物質が流されること。放出反対という立ち位置を続けていきたい。」
(2022年4月5日 東京新聞)

沖合海洋調査「福島第一原発沖1.5km地点」

たらちねでは、福島第一原発沖周辺の放射能汚染の実態を知るため、年4回(2,5,8,11月) 福島第一原発1.5km沖の海洋調査を2015年より行っています。

海洋調査の様子は、FacebookやInstagramに掲載していますので、ぜひご覧ください！

https://www.facebook.com/tarachineiwaki/

https://www.instagram.com/tarachine.311/

2022年2月　海洋調査地点

2022年2月　海洋調査測定結果

Bq/L

海水	セシウム137	トリチウム	ストロンチウム90
海水A　表層	0.004±0.0005	ND<0.19	ND<0.0008
海水A　下層	0.004±0.0005	ND<0.12	ND<0.0008
海水B　表層	0.006±0.0006	ND<0.12	ND<0.0008
海水B　下層	0.002±0.0005	ND<0.12	ND<0.0007
海水C　表層	0.003±0.0005	ND<0.13	ND<0.0008
海水C　下層	0.002±0.0005	ND<0.13	0.0011±0.0005
海水D　表層	0.005±0.0005	ND<0.12	ND<0.0007
海水D　下層	0.003±0.0004	ND<0.13	ND<0.0008
富岡港　表層	0.031±0.0008	ND<0.12	ND<0.0008

Bq/kg生

魚	セシウム137
アイナメ	1.1±0.09
ムシガレイ	0.9±0.1
ムシガレイ	0.5±0.1
クロメバル	1.2±0.1
キツネメバル	0.9±0.1
ウスメバル	1.5±0.1
ウスメバル	0.8±0.1
シロメバル	1.8±0.2
シロメバル	1.0±0.1

Bq/kg乾

魚	ストロンチウム90
アイナメ	ND<0.22
クロメバル	ND<0.12
ウスメバル	ND<0.25
キツネメバル	ND<0.10

※海水中及び魚中セシウム134は、全て不検出だったため未記載
※検出したされたものは、赤字で記載
※魚中トリチウムは、機器変更のため未測定

さまざまな存在形態のトリチウム測定に向けて

・トリチウムは化学的な存在形態や存在部位によって、異なった前処理が必要である。
・さまざまなトリチウムの測定が出来るような体制を整え、日々、分析技術を向上させている。

自由水（電解濃縮法）

電解濃縮装置の導入（2020年12月）
【測定対象】
海水や水道水、川水などH_2Oとして存在するトリチウムを測定する
【前処理方法】
・減圧蒸留にて精製する
・蒸留水を電解濃縮装置で1000Lを50mlまで濃縮し測定する

組織自由水（真空凍結乾燥法）

真空凍結乾燥機の導入（2022年3月）
【測定対象】
魚の身の中にH_2Oとして存在するトリチウムを測定する
【前処理方法】
・凍結乾燥機を使用し，昇華した水分を凝結させて回収する
・還流蒸留にて精製し測定する

有機結合型トリチウム（石英管燃焼法）

燃焼装置の導入（2022年6月）
【測定対象】
魚の身の中の有機物として存在するをトリチウムを測定する
【前処理方法】
・石英管燃焼装置を用いて、燃焼した試料から揮発した水を回収する
・還流蒸留にて精製し測定する

〇自由水型トリチウム……海水や川水、湖水、雨水、水道水といった水の種類でどう違いがあるのか、地域や季節によって変動があるのかなど、様々な比較をすることができます。

〇組織自由水トリチウム…生体内で水の状態で存在し、海水のトリチウム濃度とほぼ同じ濃度となるため、魚が生息する海水中のトリチウム濃度と比較をすることができます。

〇有機結合型トリチウム…生体内のDNA,RNA,タンパク質などと存在し、海水と置き換わるのに時間がかかるため、生体に蓄積する可能性があります。

環境水中トリチウム濃度把握

福島第一原発からの処理汚染水放出計画による海洋汚染の環境モニタリングを強化するため、全国のネットワーク通じて、たくさんの環境水(海水、川水、湖水、水道)を送っていただきました。海に壁があるわけではないので、福島から流された高濃度の放射性物質を含む処理汚染水は、海流に乗って遠くまで流れていくことが懸念されています。万が一に備えて放出前のデータは重要になってきます。

双葉郡大熊町の土壌の測定しました

・8月4日、大熊町に新たに建設される学校周辺の環境測定を行いました。また、比較データとして会津若松市の公園測定も行いました。

	セシウム137 (Bq/kg乾)	セシウム134 (Bq/kg乾)	ストロンチウム90 (Bq/kg乾)
土壌①	4.3±0.7	ND<1.2	-
土壌②	3000.7±20.7	86.4±2.9	-
土壌③	14897.9±14.9	413.2±2.9	17.08±1.12
土壌④	21166.0±70.5	601.9±13.6	4.36±0.86
土壌⑤	20118.5±87.3	549.5±16.7	ND<1.56
土壌⑥	415.4±4.4	11.3±0.7	-
土壌⑦	21877.6±35.1	596.7±6.8	-
土壌⑧	2061.3±4.5	57.4±0.6	-
土壌⑨	10569.0±31.6	306.3±4.2	5.49±1.35
土壌⑩	17275.0±32.0	489.1±6.4	-
土壌⑪	8297.0±23.4	228.0±4.6	-
土壌⑫	1613.6±10.8	45.3±1.5	2.26±1.05

※日本遮蔽技研　歩行サーベイ　ホットスポットファインダー(HSF)にて、地上１ｍを測定。単位は「μＳｖ/ｈ」

○大熊町測定結果

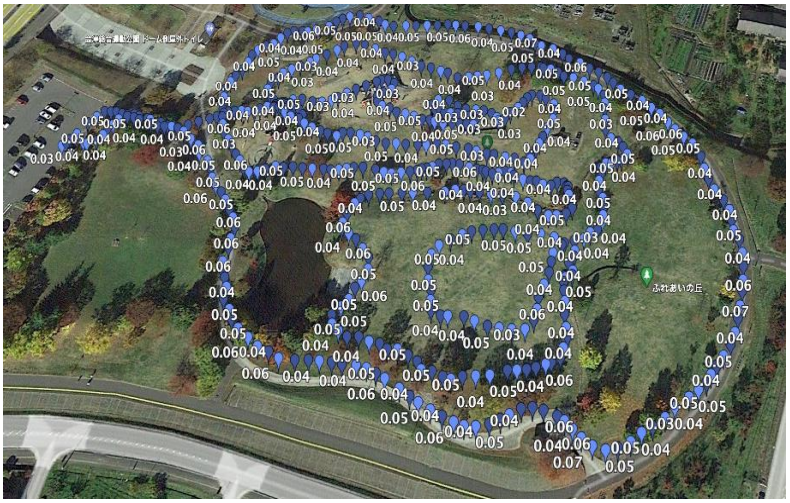
大熊町の土壌は場所によって、高い数値が出ています。
同じ敷地内でも場所によって数値の差が大きい結果になりました。放射能汚染は見た目だけでは判断が難しい点もあり、測定の重要性を改めて感じます。

○会津若松市測定結果

会津若松市の公園の空間線量と、土壌の測定結果です。ホットスポットファインダーや、測定結果でもわかるように、大熊町と会津若松市では汚染具合の差が著しいです。比較したデータを取ることはとても重要です。

	セシウム137 (Bq/kg乾)	セシウム134 (Bq/kg乾)	ストロンチウム90 (Bq/kg乾)
土壌①	59.1±0.8	1.8±0.3	ND<1.63
土壌②	158.4±1.2	4.2±0.3	-

※日本遮蔽技研　歩行サーベイ　ホットスポットファインダー(HSF)にて、地上１ｍを測定。単位は「μＳｖ/ｈ」



原発事故被災地の歴史探訪プロジェクト
～過去は未来をどうつくったのか？未来は過去にどうこたえるのか？～

今年度から新たに新規事業として加えた、「原発事故被災地の歴史の探訪」が本格的に始動しています。日々の活動を行っていくの中で常々思うことは、「なぜ、原発事故はおきたのか？」「なぜ、ここに原発が建てられたのか？」ということです。人災による化学事故は、世界各地で起きていますが、そこで生きる人々の生活、健康被害が脅かされます。
原発は、ある日突然できたものではなく、この施設を誘致するに至る土地との歴史があり、そこで生きる人々がいます。未来の子どもたちが、私たちと同じ過ちを繰り返さないために、これまでの土地の歴史を紐解き、「なぜ、こうなったのか？」を突き止めていきたいと思います。

相双地区における長い歴史

これまでの活動のなかで、福島の特に相双地区における長い歴史を聞くことができました。飢餓や戦争、また古くからエネルギー供給地としての役割を担い、その中で必死に命を繋いできた歴史を知りました。 人々の命を守ってきた先人たちの努力や知恵が、今の私たちの命に繋がっていたのです。
そしてその繋がりは、私たちから未来に繋がることを知りました。

・人間は、過去に何を学び、それをどう生かしてきたのか？
・犠牲になられた過去の人々の思いは？
・そして、未曾有の人災の今に向き合う私たちの思いは？

原発事故により、私たちは先人たちが守ってきた土地を離れ、懐かしい思い出の土地は事故以前と全く変わってしまいました。原発事故以前 にも公害による地域の汚染に苦しみ、戦い続けておられる人々が全国にいらっしゃいます。今も昔も、苦しみの絡繰りは共通しているのではないでしょうか？
私たちは先人たちが繋いできた歴史を多くの方々から聞き取ることで自らの心に向き合い、過去に学んでいきます。

福島県移住ポータブルより抜粋

担当スタッフからの声

これまで、たらちねを訪れるたくさんの方からお話をうかがってきました。そのなかには、2011年よりずっと以前の1700～1800年代に日本の広範囲で起きた飢饉のお話もありました。当時は藩を越える移動が制限されていたにもかかわらず、人々の命がけの移動が続いていたことを知りました。
多くの困難を経験してきた双葉郡を軸に、繋がってきた命をこれから先にも繋げていくため、歴史から学びを得られたらと思っています。

相双地区と言えば「原発事故」を連想します。そこからの新しい未来も大切ですが、長年土地に根付いてきた人々や育まれた文化は、事故の風化と共に忘れられ置き去りにされるのでしょうか？
丁寧に地域の軌跡を掘り起こし知る事は、失われていくもの、過ぎ去っていくものに対する敬意になると思います。土地の精霊に導かれながら、どこまで進めるのか。私たちの探求の旅路はまだまだ続きます。

原発事故後、その立地付近で生活をしていた当事者の私は、このプロジェクトを通して、これまで考えもしなかった原発の歴史に触れることとなりました。先輩方から聞く生の声からは、今というのは、過去があって未来に繋がるものであることを改めて考える機会をいただきました。聞き取りをさせていただいた一人一人の言葉には、これからを生きる私たちへの思い願いが込められています。
私たちは、当時を生きた人々の思いを記録し、これからを生きる子どもたちに正しく伝え遺したいと思っています。よりよく生きる手がかり、知恵として繋がって欲しいと願っています。

相馬野馬追の見学

南相馬市博物館

専門家による座談会

富岡震災伝承施設

勿来関文学歴史館

たらちねクリニック　院長挨拶

子どもたちはみんな、手をつなぎ、大声で笑い、時にはとっ組み合いをしながら成長していきます。しかしコロナ禍の3年間、いろいろな場面で子どもたちの活動にストップがかけられました。感染防止のために、時に理不尽と思えるような行動制限を強いられたこともあります。

想えば11年前の原発事故の時もそうでした。外で遊んではいけない、花や土を触ってはいけない、家の畑で採れた作物は食べてはいけない。そんな状況になったのは、自然にではなく、大人がつくった社会の副産物のためだったのです。

閉じ込められた環境の中で、子どもたちはゲームや動画との付き合いが長くなり、友だちが恋しい時は、スマホやSNSを使うケースが多くなってきています。携帯やスマホは、その使用時間が長いほど、学習時間の長短に関係なく、学力が低くなる傾向があります。思考・記憶・発想・行動コントロールなどの能力が後退するのを防ぐために、ネットやゲームの使用時間の制限が必要になってきています。

1970年代アメリカ・ネバダ州の子どもたちの学力が低下していった時期がありました。その原因を調べてみて判明したのは、同時期にネバダでは核実験が繰り返し行われていたということです。放射能被ばくが、発達中の子どもたちの脳神経系を侵していたのです。他にもたくさんの健康被害が指摘されたため、核実験は中止されました。

Photo by Misao Fujita

子どもたちには健康に生き、遊び、勉強をする権利があります。それを保障する義務が大人にはあります。もしそれを阻害させようとするものがあれば、社会や決まり事を是正させなくてはなりません。

子どもたちが「良い子」や「病気の子」を演じることなく、のびのび歩いて行ける道を整えることが、大人になってしまった私たちの役目ではないでしょうか。

2022年11月　藤田操

こどもドックの利用者様の声

昨年皆さまからご支援を頂き作成しました【こどもドック手帳】は、お渡しした方々から「これまでの結果が1冊の手帳にまとまっているので、とても見やすいです。」「デザインも可愛らしくて素敵ですね。」と大変好評をいただいております。また、毎年こどもドックを受けられている利用者様は「今年もこどもドックを受けるので手帳を持ってきました。」と以前お渡しした手帳を持参し活用されていました。

「こどもが健診を受ける機会はほとんどないので、たらちねクリニックで採血や甲状腺検診などを受けられるのはありがたいです。」「こどもドックは無料で受けられるので、お金の心配をせずに安心して受診できます。」といった声も寄せられています。

検査項目	
診察	内科診察
甲状腺超音波(エコー)検査	のう胞や結節などの有無を調べます
ホールボディーカウンター(WBC)	全身の放射能測定(5-15分間)
尿中セシウム測定	自宅で2ℓの蓄尿が必要です クリニックで専用のキットをお渡しします
身体計測・生理学的検査	身長、体重、視力、聴力、血圧
血液検査	一般的な血液検査項目 (肝臓、腎臓、貧血、炎症反応) などに加えて 甲状腺ホルモンも調べます
尿一般検査	比重、PH、蛋白、糖 ウロビリノーゲン、潜血
心電図	

たらちねこどもドック対象者：
東日本大震災当時、18歳以下だった方
（平成4年4月2日以降に生まれた方）

のど元にゼリーを塗りエコーを行います。普段は部屋を暗くして行いますが、小さいお子さんは暗いと怖がってしまうこともあるので、その時は明るいまま行います。

初めての甲状腺検診、少し緊張していた様子でしたが最後まで上手に出来ました☆

甲状腺検診は5～10分ほどで終わります。
事前にお電話で予約をしていただくとスムーズに受診できます。

予防接種を受けた後、お時間があったので甲状腺検診も受けることになりました。

院長コラム

たらちねHPのクリニックのコーナーに毎月、院長コラム「みさお先生のたらたら日記－ぼくのノオト－」を毎月掲載しています。日々の想いを時に優しく、時に鋭く綴ったコラムの中から一部を紹介します。

先生のコラムのバックナンバーはこちらです！→

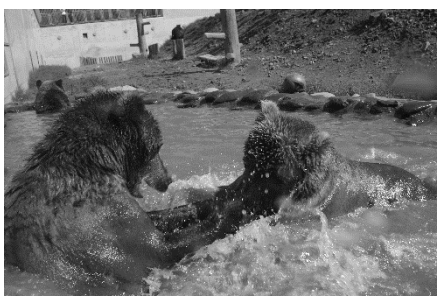


Photo by Misao Fujita

ぼくのノオト「時空を超えて」

車をピカピカに磨いているキザな男。気になってよくよく見ると、あいつだった。「白髪だらけになったねぇ」「お前こそ似合わない服着て」「ご立派なのは車だけだな」。いきなり無礼千万な会話が飛び交う。

肩をたたき合い、数十年を飛び越えた時空の中に友といた。ハグなんて上等な言葉がなかったころ、得意技のコブラツイストや横四方固めが、あいつの友情表現だった。

小名浜で仕事をしていることを話した。「俺も、ずっといわきにいた。魚が旨かったなぁ」と言うあいつは、原発の仕事をしていた。そのあとは何も言わなかった。いま、学校や保育園・幼稚園では、給食の時はしゃべらない、大声を出さない、手をつながない、集まらないことが良いこととされ、子どものシミついた成長を懸念する声は、風に揺れる灯となっている。

良い子じゃなくていい、モゾモゾ・グニグニしながら、たくましく育ってほしい。

甲状腺検診

2013年から始めた甲状腺検診は、2022年9月までで延べ14730名の方が受診されました。
福島県では、震災時に概ね18歳以下であった方（1992年4月2日以降）を対象に甲状腺(超音波)検査を実施しています。
福島県が実施している甲状腺検診で、2022年2月2日の時点で266名が小児甲状腺癌か癌の疑いと認定されました。

たらちねでは月1～2回、土日祝日に地域の公民館を利用して出張検診を行っています。年々受診に来る人数は減っておりますが、この原発事故が子どもたちの健康に及ぼす影響はまだまだわからない状況です。

事故当時6歳～16歳だった6人が「当時福島県内に住んでいて、原発事故による放射線被ばくの影響で甲状腺癌になった」と主張して集団訴訟裁判が始まりました。このようなニュースや情報を耳にすると、不安な気持ちになるといった方も増えてきております。たらちねでは、出来るだけ皆さまの不安な気持ちが少しでも軽減できるように、今後も出張検診を行って参ります。

甲状腺検診一覧　2022年1月～9月　　検診人数252名

出張検診日	場所	人数
1月9日	北茨城市民ふれあいセンター（北茨城市）	30
1月23日	南相馬労働福祉会館（南相馬市）	20
3月21日	只見町森林分校ふざわ(南会津郡)	10
4月3日	好間公民館（いわき市）	16
4月10日	四倉公民館（いわき市）	5
5月8日	須賀川市東公民館（須賀川市）	12
6月5日	サンライフ福島（福島市）	24
6月26日	郡山安積学習センター（郡山市）	28
7月10日	米沢市置賜文化センター（山形県）	24
7月24日	亘理町中央公民館（宮城県）	22
8月7日	白石市文化体育活動センター（宮城県）	23
8月28日	たらちねクリニック（いわき市）	29
9月4日	まち子ちゃんの店（田村市）	9
9月11日	二本松福祉センター（二本松市）	22
合計		274

検診対象者：3歳以上
※2012年4月2日以降に生まれたお子さまも検診可能です。
料金：震災当時18歳以下　　無料
（お誕生日が1992年4月2日以降の方）
上記以外の成人　お一人1000円

検診者の声
・1年に1回先生に会えるのを楽しみにしています。
・いわきまで行くのは大変だったので、1年に1回来てもらえて有難いです。
・たらちねで診てもらえるから、安心して生活できるんです！

スタッフ一同ガウン・マスクを着用し、感染対策を十分に行いながら検診しています。

子どもたちの転地保養事業

福島原発事故災害による環境汚染は、山や海や川や生き物と触れ合う 子どもたちの時間を失い、予期せぬ人災で、自然に親しみ情操を育む子どもたちの権利は奪われてしまいました。
安全な自然環境の中で、子どもたちが豊かな経験を重ねるために たらちね では転地保養の事業を実施しています。
『沖縄・球美の里』『オルト・ディ・ソーニ』『くまべこ子どもを守るママの会』の3つの団体と連携し、福島の子どもたちの転地保養への送り出しを行なっています。
以前は、学童保養・母子保養ともに大人数で実施していましたが、現在はコロナ感染予防のために少人数で保養を実施しています。
家族単位の少人数での保養になりましたが、みなさん家族でのんびり過ごし、子ども達は大自然の中で、海や川で水遊びをしたり、雪遊び・泥遊び、虫取りなど…普段できない体験を目をキラキラさせて楽しんでいました。

沖縄・球美の里

沖縄

沖縄・球美の里は、沖縄本島から飛行機で約30分の久米島にある伝統的な赤瓦の施設です。

ファミリー保養　4泊5日

オルト・ディ・ソーニ

イタリア

イタリア・ミラノ市のご協力をいただき、市が所有・運営する「休暇の家」で、国際交流ができる施設です。

学童保養　1か月

くまべこ子どもを守るママの会

南会津

南会津郡只見町の廃校になった小学校を利用した「森林の分校ふざわ」で、山村の暮らしを体験できる施設です。

ファミリー保養　2泊3日

2022年　保養実施状況

9月末まで実施保養
　12回　大人19名・子ども32名
今後 実施予定保養
　5回　大人10名・子ども9名

合計17回の保養で70名の送り出しをしました。(予定人数含む)

世界的な新型コロナウィルスの感染拡大により、イタリア転地保養は現在中止しております。

春の保養：大人3名・子ども5名
夏の保養：大人7名・子ども8名

合計2回の保養で23名の送り出しをしました。

原発事故後は日本の国内外で多くの保養が開催されていましたが、年月が経つとともに数も減り、ここ数年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、保養の開催は更に厳しいものになってきています。しかし、原発事故による放射能汚染は今も変わらず続いており、尿中のセシウム測定で数値が出ることも珍しくありません。
放射性物質による被曝の影響はいつ、誰に、どのように出るのかは分かりませんが、子どもたちの心身の健康を守るため、今後も変わらず保養事業を続けて行きたいと思います。

あとりえ・たらちね　こころのケア

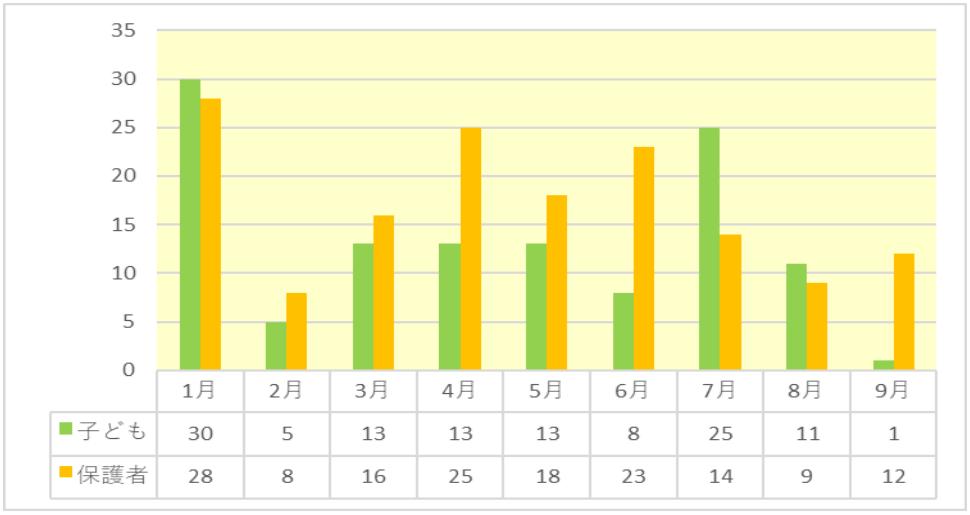
2018年1月に子どものこころのケア事業として、あとりえ・たらちねを開設し、今年で５年目になります。今から11年前の東日本大震災、2020年に始まった新型コロナウイルス感染拡大と、子どもだけではなく大人にとっても心身ともにつらい時期を私たちは過ごすこととなりました。それぞれに、いつどうなるかわからない日々を過ごしていることを実感し、行く先が不透明であるこれからのことを悩み考え苦しんだ方もいらっしゃるのではないでしょうか。

あとりえ･たらちねでは、これまで同様、子どもたちにあそびの力を通して、こころとからだを元気にするお手伝いをしています。プログラムには、箱庭あそびを始めとする、お絵かき、粘土、工作、パステルアートなどのほかに、こころの疲れをマッサージでほぐすボディーワークがあります。また、お母さんの元気をサポートするために、一人一人の語り（ナラティブ）を大切にしたナラティブヨガも取り入れています。お母さんたちにも、子どもだったときがあり、それぞれに自分の物語を持っています。お母さんたちに、子どものこころを思い出してもらうことは、子どもたちのケアを行う上で、大切なことです。それにより、お母さんたちの利用が増え、忙しい日々から解放され、ゆっくりゆったりと自分のだけの特別な時間を過ごす場にもなっています。お母さんの笑顔が子どもたちの元気に繋がっていると実感しています。

出張イベントである「ママカフェ」も毎回大好評であり、お母さん同士が、同じような悩みを吐き出すことによる心身のリフレッシュ効果を感じています。今後も、引き続き子どもとお母さんの元気を見守っていきたいと思います。

また、今年度より双葉郡の方々を含めた「たらちねお話会」を定期的に開催しています。大熊町出身の講師を招き、ふるさとの歴史などを懐かしみながら、さまざまな世代の方同士の交流の場となっています。

あとりえ・たらちね利用者数(延べ人数)
2022年1月～9月　272名



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
子ども	30	5	13	13	13	8	25	11	1
保護者	28	8	16	25	18	23	14	9	12

8月より新型コロナウイルス感染拡大防止のためしばらくのボディーワークの利用を停止

あとりえ「ワルンペ」の様子

ママカフェの様子

お母さんたちと
気兼ねなくお話を
楽しみました！

たらちねお話会の様子

とても深い歴史の話に
それぞれが真剣に聞き
入っていました！

7月１１日に、たらちね事務所で、おおくまふるさと塾顧問の先生をお迎えし、幅広い世代の方々と交流をしました。海外からオンラインで参加された方もおり、12名が参加しました。残しておきたい故郷のはなしを中心に、歴史的なお話もあり、それぞれに貴重な時間を過ごすことができました。

ご支援ありがとうございました！

今年もたくさんのご支援ありがとうございました。チャリティイベントの開催や物資のご支援など国内外から沢山の応援をいただいております。

たらちねのロゴマークのステンドグラスと貝殻のお雛様を頂きました.

神戸在住のご支援者様から、絵本をいただきました。絵本の選書は、神戸市の絵本屋さん『ぼたん堂』さんがしてくださいました。

ステンドグラス
作家のさえ様

三重県にお住まいのご支援者さまより、ロッテのお菓子盛り合わせを頂きました。

奈良県でたらちね支援のコンサート「第28回ならフォーク村チャリティコンサート」を開催してくださいました。
ならフォーク村の皆さまは定期的にチャリティーコンサートを開催され、寄付金を送ってくださいます。

長野にお住まいのご支援者さまから、リンゴと「応援しています！」と励ましのお手紙も頂きました。

北海道にお住いのご支援者様から、美味しいお菓子を頂きました。

秀明インターナショナル様磯田農園さんの大きな美味しいスイカをいただきました。

福岡在住のご支援者様から、可愛い鳥のキーホルダーとお菓子を頂きました。

ご支援者様より美味しそうなお野菜をたくさん頂きました。

島根県のベアテの
贈りものを
届ける会様

新鮮なお野菜

パタゴニア様
「リサイクルのお話」
の絵本のご寄付

震災後に福島から大阪に移住した志賀さんが、出版された絵本をご寄付いただきました。

広島在住のご支援者様より手作りの木のおもちゃを頂きました。

福島ひまわり里親プロジェクト様
ひまわりの種

【ホーロビーカーとスケールのご支援をいただきました！】いつも応援してくださっているウィズ・アス・プロジェクトの皆さんから、ストロンチウム90分析や、その他の作業で大活躍するホーロビーカーとスケールを買っていただきました。いつもありがとうございます 。

【World Belly Dance Day 2022 in OSAKA】が2022/5/14に開催され、その収益の全てをたらちねクリニックにご寄付いただきました。
World Belly Dance Dayのイベントの貴重な収益を度々ご寄付いただき、いつもありがとうございます。

【手足・衣服の汚染チェックができる機器をご寄付いただきました。】高垣洋太郎先生より、Aloka社製 HAND FOOT CLOTHES MONITORをご寄付いただきました。こちらは、数十秒で手足や洋服の汚染をチェックできる機器です。高線量地域での活動や高線量試料を扱う私達にとって、手軽にチェックできるのはとても助かります。

素敵なお葉書

ご支援者様より

たくさんのご支援を本当にありがとうございました!!

たらちねHPに【防災　原発事故の心得】を追加しました

たらちねのHPに原発事故災害が起きた時、何が起きるのか？どうしたらいいのか？を詳しく説明した▼防災 原発事故の心得▲のページを追加しました。
原発事故は、大地震・津波・火山噴火などの自然災害と複合で起きることが想定されます。福島第一原発事故が起きた時、私たちには知識も情報もありませんでした。そのために、多くの人が余計な被曝をしました。
「あの日」から、たらちねでは市民ができる防災を学び続けました。ふたたび原発事故が起きてしまったとき、必ず役立てたいと思い、私達が経験したこと、感じたことをもとにつくりました。
「知らない、情報がない」ことにより、余計な被曝をしないように防災ページを、随時更新していきます。

ご寄付のお願い

「たらちね」の活動は、皆さまからのご寄付でまかなわれております。
子どもたちの命を守るためにご支援・ご協力をお願い申し上げます。

クレジットカードによるご寄付は
インターネット上からお申込み可能です！

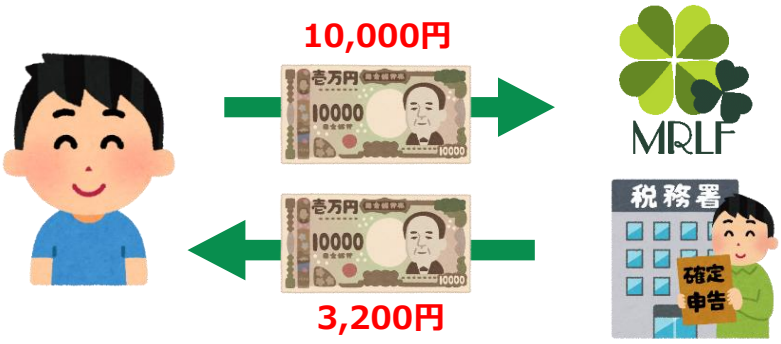
ご寄付は税控除の対象になります

たらちねは認定NPO法人です。個人・法人・遺産相続からご寄付をいただいた場合、「寄付金控除」がございます。
たらちねにいただいたご寄付は、「特定寄付金」としてすべて所得控除、あるいは税額控除の対象となります。法人からのご寄付につきましては、特別損金算入限度額の寄付金として損金算入することができます。

寄付金控除を受けるには

寄付金控除を受けるためには、必ず確定申告をしてください。
（確定申告の際には「たらちね」が発行した領収書が必要です）

10,000円の寄付をすると…



(寄付金額－2,000円)×40%
が還付されます

※所得税額の25%が限度

Paypal(ペイパル)による
クレジット決済も可能です

《ゆうちょ銀行からのお振込み》

ゆうちょ銀行　02240-5-126296　トクヒ）イワキホウシャノウシミンソクテイシツ

《ゆうちょ銀行以外の他銀行からのお振込み》

東邦銀行　小名浜支店　店番号 605　普通預金　口座番号　1389887
トクヒ）イワキホウシャノウシミンソクテイシツ

※振込手数料が免除となる郵便振込用紙がございます。
ご希望の際は郵送で送らせていただきますので、ご連絡ください。

※郵便局（ゆうちょ銀行）の「窓口」からのお振込の場合のみ振込手数料が免除されます。
※ATMおよびゆうちょダイレクト（パソコン、携帯電話、FAX）でのご送金では振込手数料は免除されませんのでご注意ください。

「野の道」

野の道をととのへよう
子らが行く路
樹々もあれ、野の花々
かたはらに蜜も虫も

裸足よ歩けば
ひたひたと
死んでゐるひとたち
うたを唱へば
かやかやと
未だ生まれぬもの等にも
響き伝はる
生きてゐる音

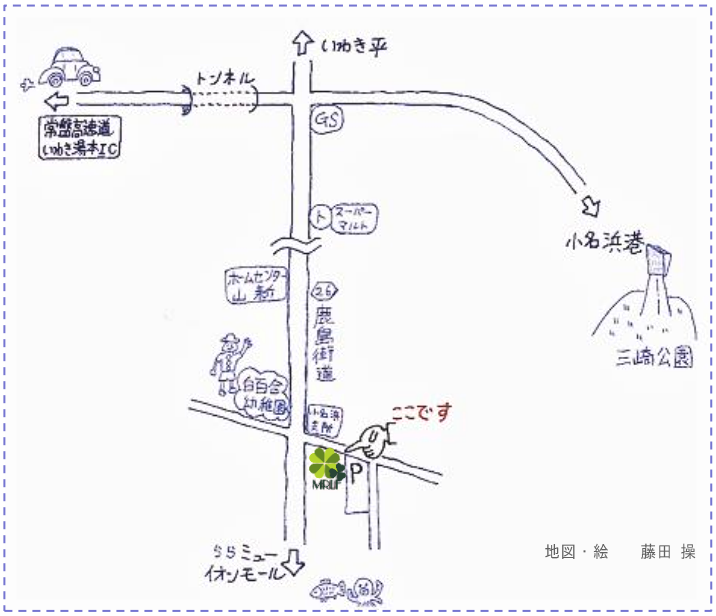
野をならし
道をととのへよ
子らが通ふ野の路
はるかむかうを見るあたり

「子どもたちの歩く道をととのえていく」私たちが日々大切にしていることです。
子どもたちの毎日を支える活動の詩(うた)です。

認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
〒971-8162　福島県いわき市小名浜花畑町11-3
カネマンビル3F
TEL 0246-92-2526　　FAX 0246-38-8322
メールアドレス toiawase@tarachineiwaki.org

ホームページ　インスタグラム　フェイスブック

随時更新してます♪　フォローお待ちしてます！



たらちね通信vol.21

発行者　　認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね
福島県いわき市小名浜花畑町11番地の3
電話　0246-92-2526
ホームページ　https://tarachineiwaki.org
発行日　　2022年11月1日

Copyright © 認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
この内容を許可なく転記することを禁じます